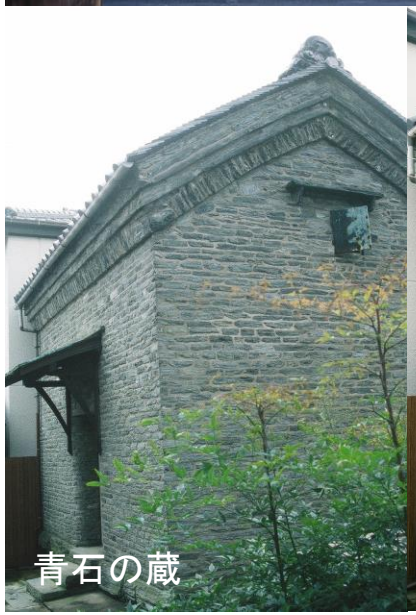
郭家住宅

青石の事務所ビル

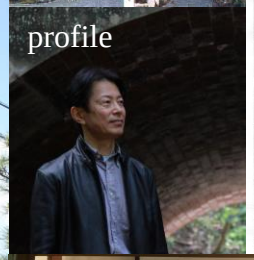

青石の蔵

旧宇治田邸（解体）

歴史的建造物の保存とまちなみ景観

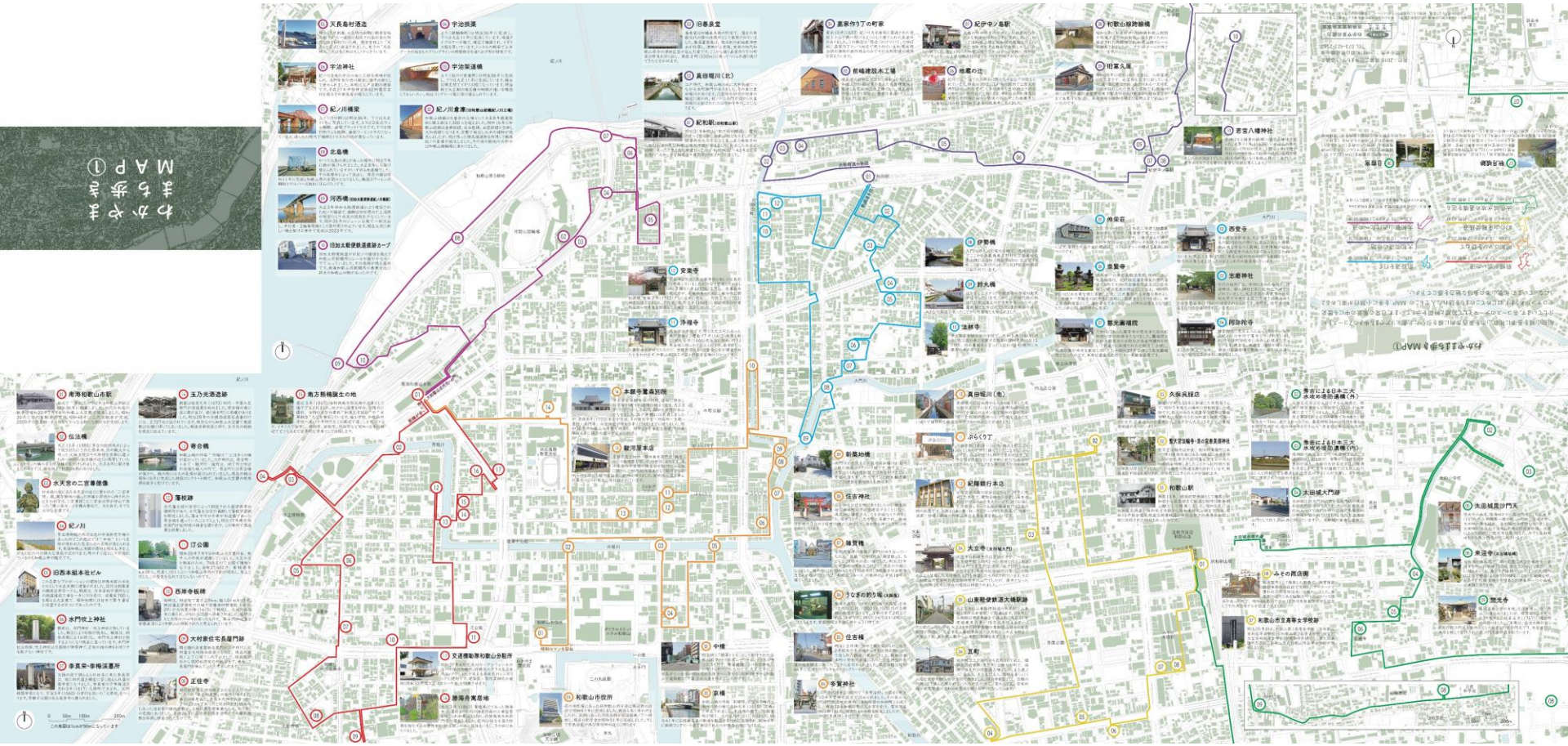
2018.11.2　中西重裕

profile



まち歩き

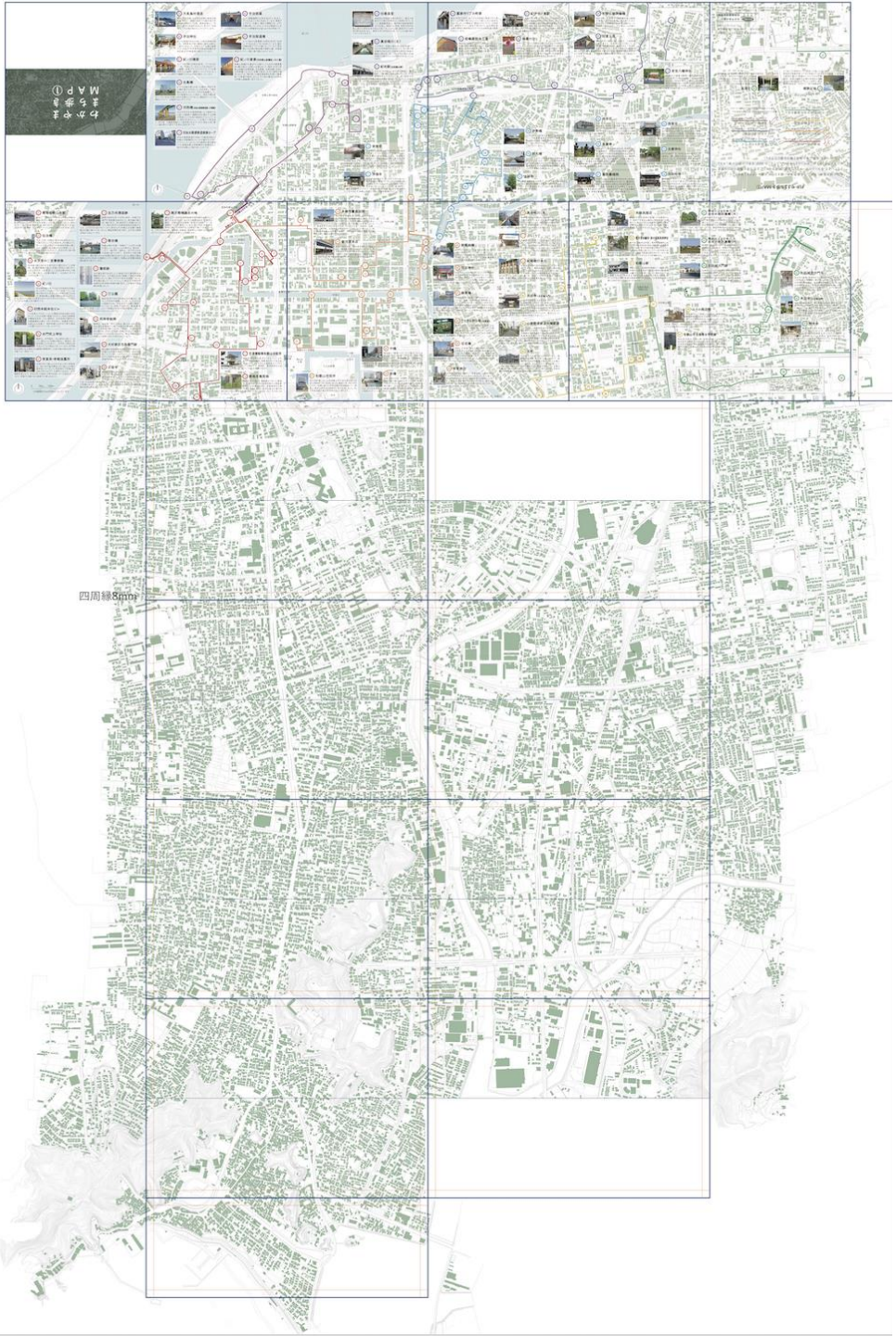
歴史的建造物映像



わかやまち歩きMAP①

わかやままち歩きMAP①

わかやままち歩きMAP②



明治の都市計画はドラマチックであった

紀和駅（建替え前）

プラットホーム

改札口

凱旋道を行く

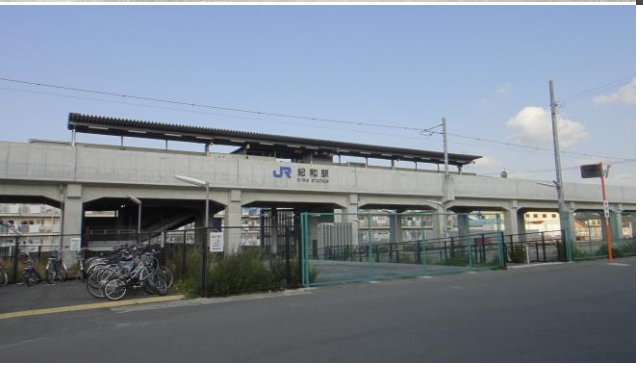
和歌山城方向を見る

メインストリートに並ぶ
建物
RUGBY

旧谷本産婦人科病院

旧坂東病院（現存）

旧駿河屋工場
旧池端眼科



紀和駅は
高架駅に
変化

まちの変化を知る

煉瓦造の旧捺染工場
は駿河屋工場になり
駐車場に変化

地蔵の辻のお地蔵さんは
南に200m移動して残された

安政２年（1856）和歌山城下町絵図（和歌山市立博物館蔵）

嘉 家 作 丁の町家

城下町への出入口である本町御門の東側には、江戸時代の大和街道に、寛永 10 年（1633）の紀の川大水害後に築造された堤防上から堤防の下側へと懸けるようにして建てられた白壁の家並みがあった。この構造は「懸 造」とよばれ、「嘉 家作丁」の地名として残る。現在は数件 が残り、大部分が明治以後の建築であるが、本瓦葺の伝統的な町家の様式を残し、街道の風情を今に伝える

嘉家作りの町家　内部

玄関の大戸

土間

下階への階段

国道24号線（旧大和街道）沿い残る建物

前嶋建設倉庫

大正期建築

旧富久屋

昭和28年建築

紀伊中ノ島駅

昭和10年建築

和歌山市駅は明治36年に開業

大和歌山近代化への道

宇治架道橋

上りは明治36年に完成し、下りは大正11年完成
暗渠タイプのアーチ橋

紀ノ川倉庫（旧和歌山紡織紀ノ川工場）

和歌山紡織の5番目の工場として大正8年操業開始し職工数は1,300人を超える。空襲で被災し大半の建物が焼失。焼け残った煉瓦建造物を利用して戦後紀ノ川倉庫が誕生。敷地の大部分は和歌山競輪場に変わる。

かつて北島の渡しがあった場所に明治7年に木造橋が架けられ、大正8年に架け替えられた。増水によって流出し、現在の橋は昭和11年に完成した。

上り（河口側）は明治36年、下りは大正11年完成。上りは2柱式ウェル橋脚、曲弦プラットトラス下りは楕円形ウェル橋脚、曲弦ワーレントラス。造られた時代で橋脚とトラスの形状が異なっています。

大正3年旧加太軽便鉄道により建設された紀ノ川橋梁で、橋脚は切石積みで上流側が矩型にして水流の抵抗を少なくしている。

①中橋

③本鳥松（解体）

④-1武家屋敷門長屋
江戸後期

⑤和歌山県庁本館

④-3武家屋敷門長屋
2017年移築

②レンガアパート

④-2武家屋敷門長屋
明治30年頃移築

⑥三尾家住宅

⑦松下会館

中橋

明治期に「標準トラス」として製作された全長100フィートのポニーワーレントラスと呼ばれるもので、東海道線、上りの京都桂川に明治31年架けられていたもの。大正元年には徳島市と小松市の間を流れる勝浦川に架かり昭和28年に和歌山で道路橋として第3の人生を歩んでいる。

レンガアパート

大正9年建築の旧紀陽織布の社宅であった。

和歌山城の見える風景

日本料理本鳥松

“アロチ”界隈を通ると
黒板塀に囲われた
料亭の中から三味線
の音が聞こえる粋な
風情があった。2005年解体

ディテールに
神が宿る

継ぎ長押

武家屋敷門長屋①

新聞 2014.7.8 (朝日) 第3種郵便物認可

取り壊されることになった武家屋敷の門長屋

和歌山市内に唯一残るとされてきた紀州徳川藩時代の武家屋敷遺構「門長屋」（同市堀止東2丁目）が取り壊されることがわかった。戦災を免れ、城下町の風情を伝えるだけに惜しむ声が上がっており、せめて映像で残そうと、建築家らのグループ「和歌山歴史的建造物映像化の会」が5日、門長屋を撮影した。

武家屋敷 消ゆ

和歌山唯一「門長屋」取り壊しへ

門長屋を撮影する中西さん（中央）＝いずれも和歌山市堀止東2丁目

「惜しむ声」建築家団体が撮影

市教委などによると、門長屋は江戸時代の武家屋敷の門で、門の両脇に併設された長屋に使用人や家臣が住んでいた。堀止の門長屋は、江戸末期に現在の県庁そばの有田屋町に建てられたが、1897（明治30）年ごろに現在地に移築された。白と黒の格子状の模様が美しい「なまこ塀」の真ん中に、ずっしりとした木の門がそびえ、壁の前には「当たり止め」という石が置かれている。

和歌山では、1619年ごろから本格的に城下町が作れ、藩政時代には城周辺に約8700人の武士が住んでいたとされる。だが、市内各地に残っていた武家屋敷遺構も1945年7月9日の大空襲で大半が焼失し、さらに戦後の再開発で激減した。こうした中、堀止の門長屋は、99年に発行された市の観光パンフレットで「徳川400年の歴史を彷彿（ほうふつ）させる」と紹介される存在だった。■

今回、所有者が引っ越すことになり、地元の不動産業者が土地を購入し、取り壊しを決めた。市教委は文化財に指定することも検討したが、すでに一度移築し、内部を改装していることなどから断念した。

市教委文化振興課の担当者は「文化財に指定していないと市として取り壊しを止めることはできない。保存や移築にも資金が必要で維持は難しい」と話す。それでも市には「何とか残せないのか」と市民の要望や相談が相次いだという。

映像化の会代表で1級建築士の中西重裕さんのもとに「門長屋が取り壊される」と情報が入ったのは1週間前。5日午前、メンバーら約10人で現地を訪れ、許可を得て門長屋の室内や外壁をビデオで撮影した。中西さんは「城下町の痕跡が残る貴重な建物。もう少し早く、県や市が文化財の指定をしていれば取り壊しを免れたのではないか」と指摘する。

業者によると、すでに取り壊しの準備工事が始まっており、8月末には取り壊しを終える予定。門長屋のそばに住む主婦（71）は「私が嫁いできた50年前には、このあたりには何軒も武家屋敷があった。町並みも人も時代とともに変わってしまって、本当に寂しい」と惜しんでいる。

26日に上映会

撮影された映像の上映会は26日午後1時半から同市西浜の国名勝「養翠園」の湊御殿で開かれる。参加自由。問い合わせは中西さん（073・452・2331）へ。

（加藤美帆）

歌山 和3 13版 2014年（平成26年）7月25日 金曜日 朝日

門長屋、県が移築方針

住民らの声受け判断

和歌山市内に唯一残るという紀州徳川藩時代の武家屋敷遺構「門長屋」（同市堀止東2丁目）の取り壊し計画をめぐり、県が急きょ保存のために門長屋を買い取り、別の場所に移築する方針を固めたことがわかった。取り壊し時期は来月末に迫っていたが、住民らの間に惜しむ声が広がり、県が異例の判断に踏み切った。

県関係者によると、県はすでに門長屋の買い取りに向け、外部のコンサルタント会社などに委託し、移築工事などにかかる費用の調査を始めた。建物の移築先の候補地も検討する。

さらに、文化財に指定することが可能か判断するため、近く県、市双方の専門委員会に依頼して文化的価値を見定める予定だ。

県教委と市教委によると、堀止の門長屋は、江戸末期に現在の県庁そばの有田屋町に建てられたが、1897（明治30）年ごろに現在の場所に移築された。白と黒の格子状の模様が美しい幅約20㍍にわたる「なまこ塀」が特色だ。

和歌山では1619年ごろから本格的に城下町が作られ、藩政時代には城周辺に約8700人の武士が住み、武家屋敷が建てられたという。だが、市内に残っていた屋敷の遺構の数々は1945年7月9日の大空襲で大半が焼失し、戦後の再開発でさらに激減。この門長屋が唯一とされる。

今回、所有者が引っ越すことになり、地元の不動産業者が土地を購入し、取り壊しの方針を決めていた。市に対して「何とか残して欲しい」という住民らの要望が相次いでいた。

報道機に 知事即決

今月に入り突然発覚した門長屋の取り壊し計画は、関係者に衝撃を与えた。解体を惜しむ建築家らのグループ「和歌山歴史的建造物映像化の会」が、映像による記録を開始。住民からも「歴史的な景観が消えるのは惜しい」と保存を求める声が上がった。

8日に朝日新聞がこの取り壊しの動きを報じると、市役所には市民らの問い合わせが相次いだ。

県も動いた。県庁では、記事を見た仁坂吉伸知事が「激怒した」（県幹部）という。取り壊し計画は事前に知事の耳には入っていなかったといい、庁内の幹部を緊急招集。「とにかく保存するべきだ。毀取りを考える前に、まず解体を止めるように」と指示した。

必要な予算や移築先のめどは立っていなかったが、その日のうちに県が保存する方針をトップダウンで決めたという。土地を所有する不動産業者は8月末にも取り壊しを終える計画で、すでに工事の準備を始めていたが、知事が自ら業者に電話し、取り壊しを待つように依頼。計画をストップしてもらった。

一方、和歌山市教委は以前、門長屋の文化財への指定も検討したものの、一度移築され、内部が改装されていることなどから断念していた。市教委の担当課は「文化財指定がないと市が取り壊しを止めることはできない。保存や移築には資金が必要で、維持は難しい」との見解だった。

仁坂知事は朝日新聞の取材に対し、「県の歴史を振り返るうえで、徳川時代に残された建物はとても貴重だ。そのまま、みんなの記憶に残るように保存した方がいいと思う」と話した。

（加藤美帆）

郷土力士星取表 ◀ 12日目

武家屋敷門長屋　堀止東

武家屋敷門長屋②

岡公園に移築再建された門長屋

和歌山県庁本館

登録文化財

和歌山県庁舎80周年記念見学会

参加無料
申込み不要

4/15

平成30年4月15日（日）10:00の部、11:00の部

各部の20分前から受付（氏名を記入頂きます）、見学時間1時間
受付　和歌山県庁本館正面玄関（和歌山市小松原通1-1）
駐車場は最寄りの有料駐車場をご利用下さい

2018年

和歌山県庁舎80年

主催　和歌山県教育委員会・一般社団法人和歌山県建築士会
問い合わせ　和歌山県教育庁文化遺産課　Tel 073-441-3738

1945年7月9日和歌山大空襲

三尾家住宅

天保12年（1841）建築

建築家 渡辺節

旧和歌山市役所 昭和11年～51年

松下会館 昭和36年竣工

岡崎地区のまち並み

長屋門を備えた農家が集落を形成している伝統的な景観

緑泥片岩の板石

旧中原嘉吉邸（朝間邸）

那智黒石

昭和3年建築

青石文化圏の名品

緑泥片岩の玉石

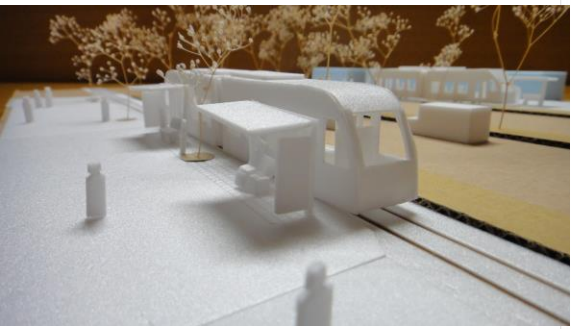
明光通りのまちなみ

和田家住宅

梅本家住宅

点在する歴史的建造物
を公共交通で結ぶ
旧路面電車のルートを
ベースにしたプラン

点を線で結び
歩いて楽しむまち



プラージュ和歌浦①

作品-2

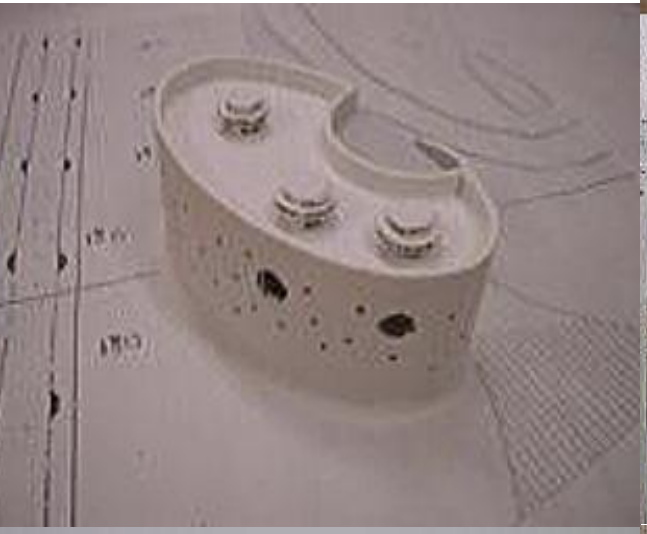
プラージュ和歌浦②

８の公園トイレプロジェクト①

８の字公園

片男波海水浴場

公衆トイレのプロジェクト



地域に根ざしたイメージを一新する自
慢できる魅力的な公衆トイレを建設す
ることによって「いたずらしたくなくなる」
住民の力で常にきれいに保ちたい」
安全である」施設の創造を目指した。

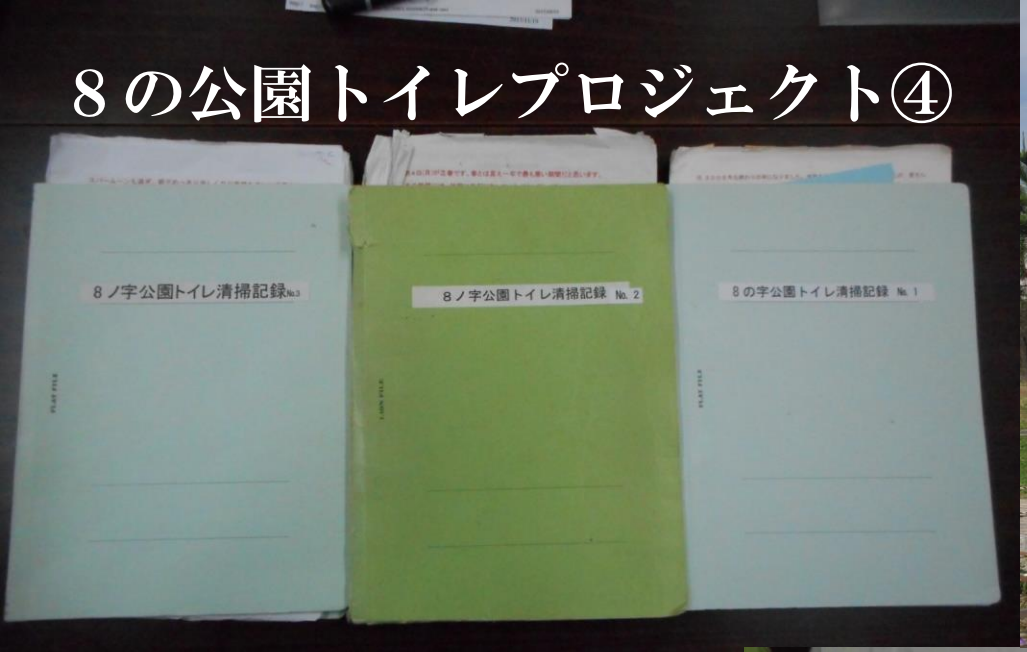
作品-3

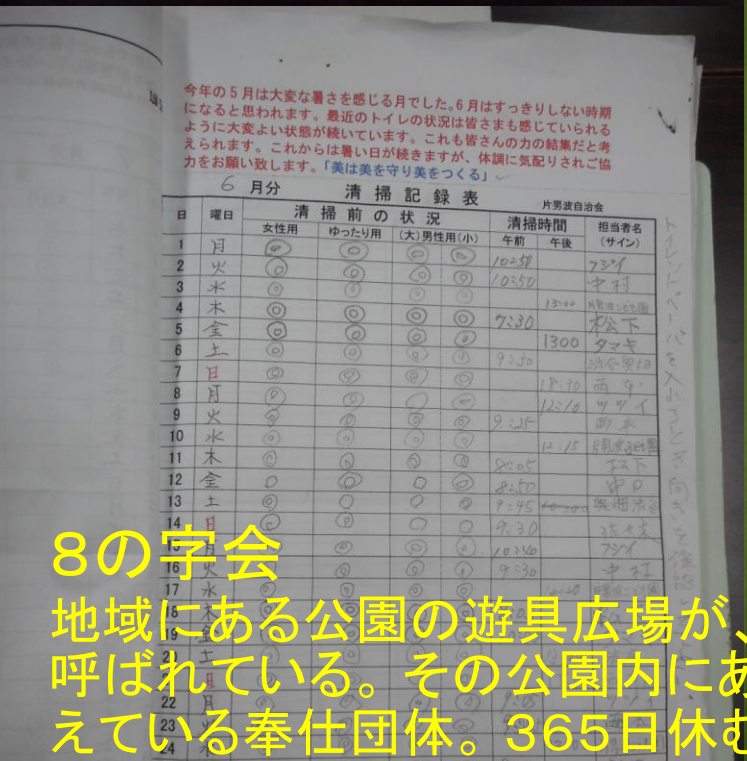
こども達による貝殻貼ワークショップ

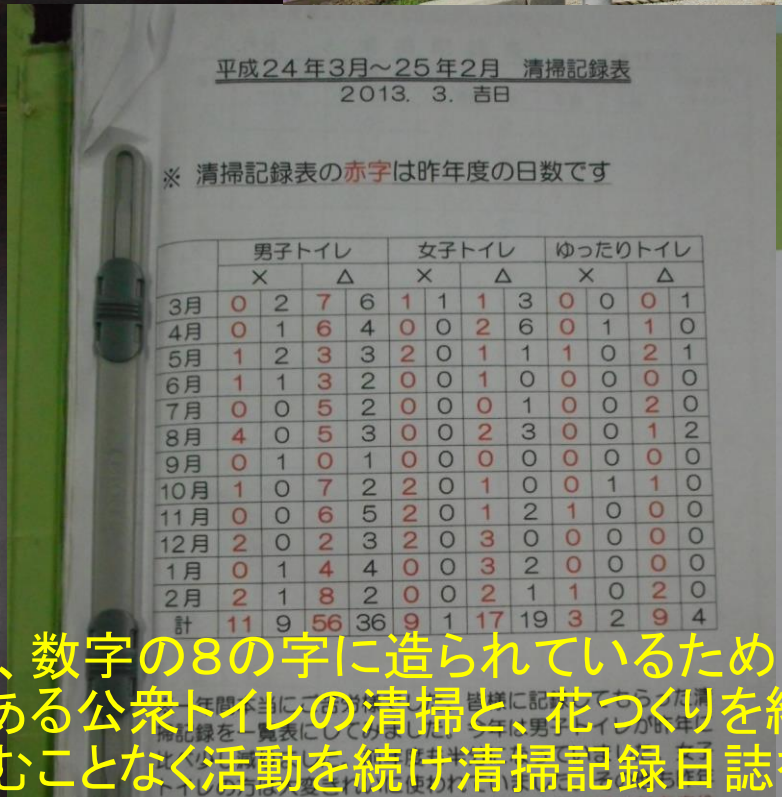
８の公園トイレプロジェクト②

８の公園トイレプロジェク

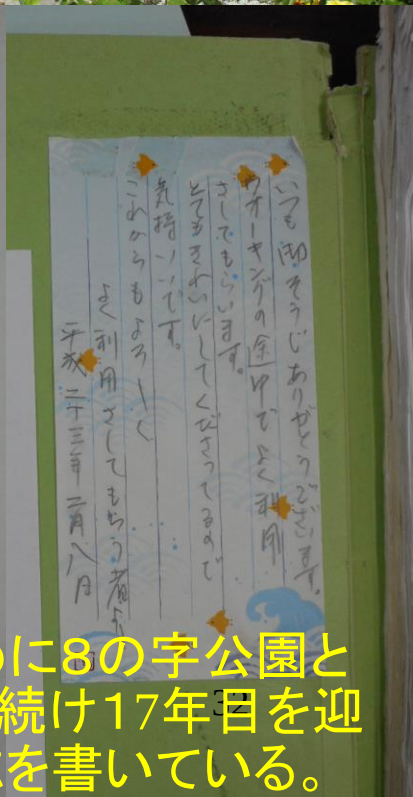
８の公園トイレプロジェクト④







	男子トイレ				女子トイレ				ゆったりトイレ			
	×		△		×		△		×		△	
3月	0	2	7	6	1	1	1	3	0	0	0	1
4月	0	1	6	4	0	0	2	6	0	1	1	0
5月	1	2	3	3	2	0	1	1	1	0	2	1
6月	1	1	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0
7月	0	0	5	2	0	0	0	1	0	0	2	0
8月	4	0	5	3	0	0	2	3	0	0	1	2
9月	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	1	0	7	2	2	0	1	0	0	1	1	0
11月	0	0	6	5	2	0	1	2	1	0	0	0
12月	2	0	2	3	2	0	3	0	0	0	0	0
1月	0	1	4	4	0	0	3	2	0	0	0	0
2月	2	1	8	2	0	0	2	1	1	0	2	0
計	11	9	56	36	9	1	17	19	3	2	9	4



８の字会

地域にある公園の遊具広場が、数字の8の字に造られているために8の字公園と呼ばれている。その公園内にある公衆トイレの清掃と、花つくりを続け17年目を迎えている奉仕団体。365日休むことなく活動を続け清掃記録日誌を書いている。

和歌の浦の景観について考える

医大病院前の交差点から南に和歌川河口明和中学校側に設けられた防音壁

現状

対岸に見える風景

34

塗装を消したイメージ

現状

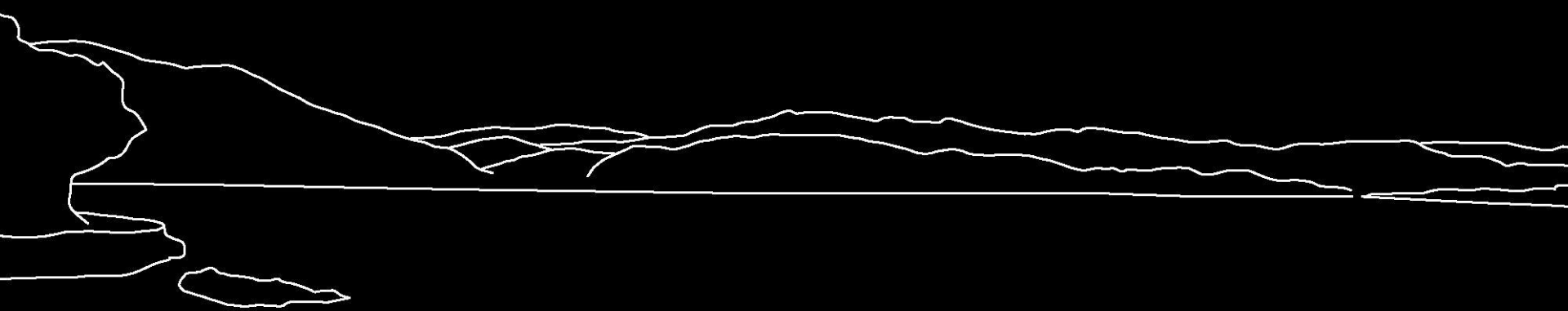
不老橋

あしべ橋
不老橋
Google ストリートビュー

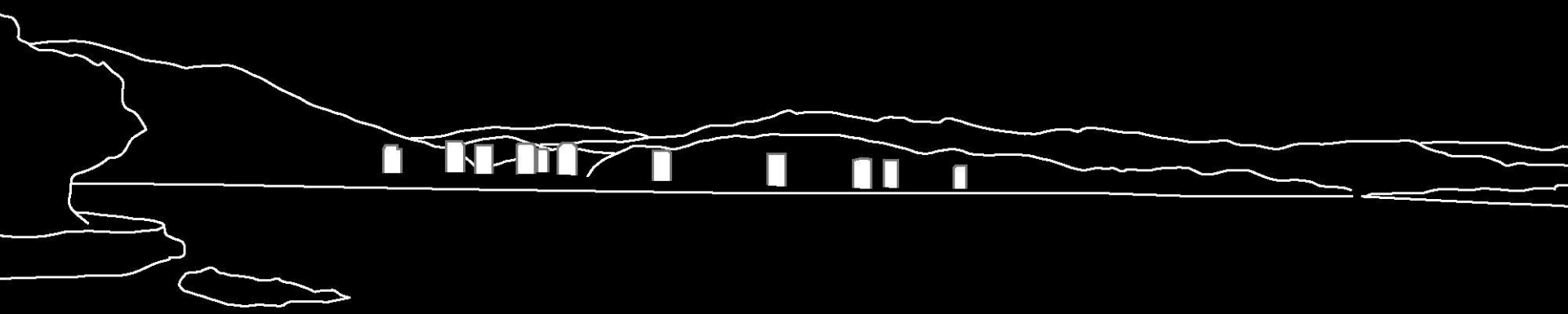
35
塗装を消したイメージ

現在の風景

稜　線



稜　線



対岸に高層マンションが建てられたイメージ

対岸に高層マンションが建てられたイメージ　稜線が切断される

初代紀州藩主
徳川頼宣のまちづくり
明治・大正・昭和
昭和20年7月9日
和歌山大空襲
経済成長の時代
スクラップ&ビルド
個性の喪失
歴史を知るまちづくり
歴史的建造物の保存活用
SDGsの17の目標